

ともうぐひす
友 鶯



春日野の友鶯の鳴き別れ
ともうぐひす な わか

帰ります間も思ほせわれを
ま おも

卷十一 一八九〇 作者未詳

歌意 春日野の妻を求めて鳴く鶯のよ
うになき別れて、お帰りになる間でも
お思ってください。私のことを。

中西 進著 万葉集（全訳注・原文
付）。著者注、によると「友鶯」は底本
は「犬」、類聚古集によるとあります。

「万葉集の鳥」の著者川口爽郎は、
友鶯は類聚古集・紀州本・西本願寺本
に犬鶯とあるのを、（１）友の誤り、（２）
哭の誤りなどの意見が出され、友鶯に
落ち着いて現在に至っているが、犬鶯
は誤りではなくて、そのまま犬鶯とし
たならどんなものか、それは現在のオ
オヨシキリではないかと思うからであ
る。と書いています。

友鶯＝群生する鳥でなければ友と呼
ぶのは相応しくない。鶯が鳴きあっ
ているのは縄張りを主張し争っているの
である。ウグイスとオオヨシキリは良
く似ている。

繁殖期が終わると急に静かになり渡
去する。オオヨシキリには葦鶯の異名
もある。などから

犬鶯はオオヨシキリである。として
います。